



「トリック・オア・トリート♪」 小さなおばけたちがオガール地区にやって来た！

子育て応援センター「しわっせ」主催のハロウィンパレードが10月14日、オガール地区で行われました。親子21組45人が参加し、役場庁舎で熊谷町長からお菓子をもらった後、「トリック・オア・トリート」と唱えながら、オガール地区にある5つのお店を回りました。手作りの衣装で参加した古館地区の西村倫子さんと凛君(2歳)親子は「たくさんのお菓子をもらえてうれしいです」と満足の表情でした。



お父さん、お母さんも思い思いの仮装をして楽しんでいました



仮装した熊谷町長(左)からお菓子をもらう子どもたち



演奏を楽しみながら、参加者も一緒に踊っていました

福祉の祭典 ふれあいフェスタ 2016

「ふれあいフェスタ2016」が9月24日、情報交流館で開催されました。この催しは、障害者の自立と社会参加を促し、障害者と健常者がお互いの立場を理解しながら交流していくために毎年開催されているもの。毎年人気のバザーや屋台コーナーをはじめ、遊びや体験のコーナーが建物の内外に並びました。また、ステージ発表では、福祉施設の利用者による歌や踊りのほか、音楽ユニット「アンダーパス！」の演奏などを、訪れた多くの人たちが楽しみました。

一流奏者たちが音色を奏でた野村記念講座 ～企画に携わった嶺貞子さん(東京藝術大学名誉教授)に教育文化功労表彰～

第34回野村記念講座が10月23日、野村胡堂・あらえびす記念館で開催されました。東京藝術大学名誉教授でクラリネット奏者の村井祐児さんによる講演会の後、村井さんや野村学芸財団第1号奨学生で声楽家(ソプラノ)の嶺貞子さんたちによるコンサートが開かれ、約100人の来場者は美しい音色に聞き入っていました。平成7年から同講座の企画に携わり、教育文化の振興に尽力いただいた嶺さんは今回が最後の出演。嶺さんの功績をたたえ、熊谷町長から表彰状が贈られました。野村胡堂の孫、住川碧さんは「嶺さんは毎年素晴らしい演奏をしてくださり、夢を見せてもらいました」と名残惜しんでいました。



野村記念講座での思い出を語る嶺さん

自分らしく豊かに生きるために 紫波二中の2年生が職場体験を実施



図書館でカウンター業務を体験する生徒たち

紫波第二中学校(田村敏実校長)の2年生46人は、8月28と29の両日に職場体験を行いました。これは生徒たちが社会性を身につけ、働くことを考えるきっかけにするために行われたもの。生徒たちは、町内外19カ所の事業所の協力のもと、希望した職場を訪問しました。図書館では、3人の生徒が本の整理やカウンター業務を体験。沢田雅央さんは「本の整理が大変でしたが、お客さまのことを考えて司書の人たちのように行動したいと思いました。最終的にはときばきとお客さまに接することができました」と振り返りました。

※この記事は、町企画課で職場体験をした吉田丞志じょうしさんが取材し、作成したものです。

ママさんバレーボールチームが全国大会へ

町のママさんバレーボールチーム「WEED」(瀬川久美子代表)が9月4日に行われた県大会で優勝し、9月21日に熊谷町長のもとを報告に訪れました。13人が所属し、古館小学校体育館で週2回練習を行っているという同チーム。メンバーたちは12月8日から11日まで新潟県で行われる全国大会に向けて「自分たちらしいプレーで上位を目指して頑張りたいです」と意気込みを宣言しました。



熊谷町長(中央)に報告をした(左から)大槻美貴選手、瀬川久美子代表、松田奈津美選手、佐々木幸子選手



(左から)ケアセンター南昌の吉岡尚文センター長、紫波郡医師会の木村宗孝会長、熊谷町長、高橋昌造矢巾町長

紫波郡地域包括ケア 推進支援センターを開設

町と矢巾町は、医療機関と介護事業などの関係者間の連携を構築するため、ケアセンター南昌(矢巾町)内に紫波郡地域包括ケア推進支援センターを設置し、10月17日に看板上掲式を行いました。今後、このセンターでは、在宅医療と介護の一体的な提供を目指して、在宅医療への対応策の検討や切れ目のない体制づくりに取り組んでいきます。

動物と共生する森づくりと ダムの役割を学ぶ

山王海土地改良区と紫波みらい研究所は9月25日、親子ふれあい研修を行いました。町内外から約75人が参加。イワナやヤマメの稚魚をダムに放流した後、平成の森にシラカバやナナカマド、ヤマボウシなど約60本の苗木を植樹しました。伊藤聖華せいけさん(上平沢小6年)は「植えた苗木が大きくなって、森に役立ってほしいです。大きくなった木をまた見に来たいです」と成長を楽しみにしていました。



協力して苗木を植える家族